福岡城に天守閣を
― 城のある都市復活!! ―

お城だより

2009年11月
No.23

[福岡城：追廻（おいまわし）門と橋の周辺]現在復元橋が別の場所に移動（模型：しんわ福岡城資料室より）

「お城と共に三十年。そして、これから」

福岡市美術館　館長
永松　正彦

福岡市美術館は、昭和五十四年十一月に開館し、お城と大濠公園の緑と水に包まれた中にあって、多くの市民に親しまれ、昨年八月には開館以来の観覧者が二千万人を超え、また今月、開館三十年となりました。関係各位、市民の皆様方のご支援、ご協力の賜と深く感謝申し上げます。

現在、所蔵品については、福岡藩主黒田家ゆかりの資料他、多数のコレクションがあり、ミロ、ダリ、黒田清輝、青木繁などの作品を含め、約一万四千点を収集しています。

また、これらの所蔵品を活用し、常設展では、例えば現在、開催中の「秋の名品展」など、独自のテーマで年に約二十展ほど展覧会を行うとともに、特別企画展を年三～四展実施しており、現在は、横山大観に認められた郷土出身の日本画家、「冨田渓仙展」を開催しています。

更に、今年で四十四回目を迎える福岡市美術展や様々な美術団体等の展覧会もあり、また教育普及についても毎日二回実施のギャラリーツアー、本市小・中学生等の体験学習、「夏休みこども美術館」などを開催し、子どもたちに新たな発見と感動を与えています。

本年五月に開催した福岡ミュージアムウィークでは、「福岡城址周辺散策ツアー」を実施し、多くの方々に好評を得ました。

今後とも、お城と大濠公園に包まれた立地の良さを十分に活かし、当館が二十一世紀における文化芸術・集客交流の拠点施設となるよう努力してまいります。

平成二十一年

福岡城 観月の宴（うたげ）

かぐや姫たちでお出迎え

写真提供：読売新聞西部本社

今年の観月の宴は、近来まれなる晴天に恵まれ、はじめてお天気の心配をせずに開催されたお月見でした。

プログラム第一部、月を迎える太鼓の響きに一瞬会場は静寂になり、古武道披露、あんどん灯火式（付属小学校）などが無事に終わり、いよいよ月の出・十七時四十一分、五供の儀が始まると、この古代からの月を讃える儀式に会場から驚嘆の声があがりました。

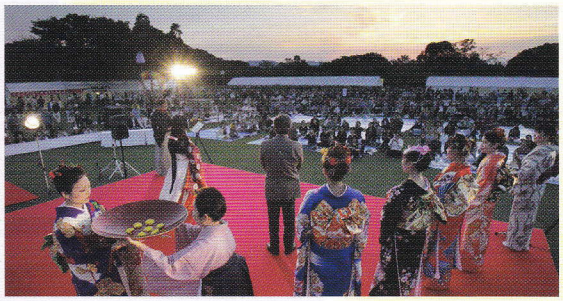
毎年欠かさず観月の宴にお仲間とご出席される会員の片山晃一氏の感想をお聞きしました。「お天気の応援もさることながら、粛々と行事が進むにつれて舞台と観客との間に一体感が生まれていて、今までで一番感動したうたげでしたね」と。

また、お月様が名島門のところから上がってくるのを見られた女性二人のお客様の感激ぶりも嬉しさがあふれておりました。

第二部・三味線や踊り、詩吟などなど楽しくときは過ぎて行きました。下の橋大手門が開放されておりましたので、そこをくぐってお帰りの方々もお見かけいたしました。

月をめでるために福岡城跡を訪れたお客様は二千五百名でございました。

なお、宴（うたげ）は読売新聞西部本社、ビジターズ・インダストリー推進協議会と福岡城市民の会の共催で開催されました。



姫路市観光宣伝隊来福

「黒田官兵衛」題材　NHK大河ドラマ誘致！福岡と連携訴え

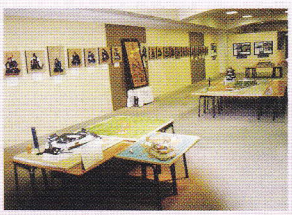
織田信長・豊臣秀吉の時代！姫路城や中津城の城主として活躍し、筑前五十二万石福岡城を築城した「黒田官兵衛」を主人公にしたNHK大河ドラマの誘致活動のため、姫路市の黒田宣伝隊が九月二十五日JR博多駅で鎧冑姿でデモンストレーションを行いました。

これには福岡城市民の会一同も応援に駆けつけ「姫路と福岡が協力し大河ドラマを実現しましょう」と呼びかけました。

筑前黒崎城跡／黒崎宿展示会

九月十九日～二十日、黒崎井筒屋にて「筑前六端城模型」「黒田二十四騎パネル」「長崎街道筑前六宿交流」の展示会が開催されました。

これには福岡城市民の会企画・筑前六端城探訪バスツアー四十二名の皆さんも参加見学しました。



第三十一回おおほりまつり　九月二十日（日曜日）

甲冑姿の黒田二十五騎を中心に少年武者や稚児からなる行列が、光雲神社（西公園）を出発し、福岡城の外掘である大濠公園を通りNHK福岡放送局まで練り歩きます。

今年は黒田長政公には、福岡商工会議所の河部会頭が扮し馬上の雄姿を披露されました。

同放送局の舞台では、鴻臚館時代、遣唐使の送別の宴を再現した「荒津の舞」が演じられ、まつりをもりあげました。

福岡城探訪

五代 黒田宣政

藤　金之助

四代藩主、綱政は正徳元年（一七一一年）五三歳で死去するが、その前年八月に長男の吉之が二九歳という若さで亡くなっていた。

そのため急拠、二男の宣政が家督を相続、二六歳で福岡藩第五代藩主の座に就いた。宣政は幼名弁之助、貞享二年、江戸桜田の藩邸で生れた。将軍家宣の一字をもらって宣政となる。

生来の病弱で、藩主になった年の長崎警備の勤番もできなかったほどであるが、就任三年目には藩政改革に着手した。綱政側近の隅田重時らに財政破綻の責任をとらせ、吉田治年らを新任するとともに身内一門や譜代の家臣の強化をはかった。

しかし農村の疲弊はひどく、藩財政は窮乏し、家臣への給料が遅配するなど深刻さは増すばかりであった。

藩政以外にも幕府の禁令を破って中国の密貿易船が筑前の港に度々押しかけ、福岡藩では、その取締りに手を焼いていた。これらの船は、故障したとか、時化にあって漂流したように見せかけて役人の目を逃れようとしたり巧妙であったが明らかに密貿易船とわかった場合は石火矢を打ちかけるなどして追い払った。

また藩史に記録されている事件として、正徳三年に起った強盗事件がある。この年の五月十日夜、鞍手郡南良津村の土手を薩摩の飛脚、内田某と海江田某が荷物を運んで通りかかったところ、五人組の盗賊に襲われた。

内田は薩摩示現流の達人だったとみえ二人を斬り倒し、一人に深手を負わしたが残りの二人は逃げた。その間に海江田は無事に荷物を木屋瀬まで送った。

届けをうけて驚いた福岡藩では藩の面目にかけてもと必死の探索を続けたが逃げた賊の二人は長崎の者で行方知れず、重傷の賊を打ち首、殺された二人とともにさらし首という厳罰に処して結着をつけた。藩ではこの事件の経過と処置を詳しく薩摩藩に報告したが、これに対して島津家から福岡藩の取り扱いに丁重な感謝のあいさつがあった。

正徳四年（一七一四年）三月三日の夜、江戸の藩邸で宣政が激しい錯乱状態に陥った。前年十月の参勤途中の船中でも発作を起したというが、生来の病弱のうえ、思いもかけなかった藩主の座と、藩政の困難さはこの若い江戸育ちの宣政の身も心もむしばんだのであろう。すでに幕府から帰国の許しを得ていたがとても帰国できる状態ではなかった。

この緊急事態に江戸在勤の家老たちは、藩主の一族である秋月藩の黒田長軌（ながのり）らを呼んで相談のうえ、即日、宣政を蟄居（ちっきょ）させることにした。幕府には宣政病気との届けを出し、福岡にも急報する。

宣政はこの時二九歳、盛岡藩主南部行信の娘と結婚していたが子供は無かった。黒田家の一族と藩の重臣たちの協議の結果、三代藩主光之の孫にあたる直方藩主長清の嫡子、菊千代を養嗣子ということに定め、幕府に願い出て認められた。

この時、菊千代は一二歳であったが一五歳として届け直ちに元服、将軍家継に拝謁して「継」の一字をもらい継高と名乗る。黒田家中興の名君と称された六代藩主の登場である。

宣政は延享元年（一七四四年）江戸で没した。六〇歳であった。

「火天の城」に負けない福岡城の映画を！

直木賞作家・山本兼一、渾身の傑作の映画化が東映でき、九月十二日より全国ロードショーになりました。「**火天の城**」は織田信長の厳命「安土の山，まるごと一つ城にせよ」により、壮大な天守閣を持つ一大城郭を完成させる棟梁の物語。西田敏行の名演技で、描き出される名工の壮絶なドラマは見る人に深い感銘と教訓を与えます。また城の持つ不思議なインパクトを感じさせる映画でもありました。封切に先立って、九月一日十八時半より東映の企画によるPRを兼ねた特別試写会が福岡明治安田生命ホールで催され、映写に先立って、当会の石井幸孝理事長が特別講演「**天下の名城　五十二万石　福岡城を語る**」として、安土城にも負けない福岡城の規模の大きさや、その復元に向けての期待が高まりつつあることを、多くの一般市民に語り、「東映さん、今度は福岡城の映画を！」で結びました。「火天の城」は本格的な商業映画ですが、地元滋賀県の肝いりもあり、大いに観光にも活かしたいとのことです。福岡でも素晴らしい素質のある福岡城をもっともっと活かさねばならないと強く感じた一夕でもありました。

「火天の城」
パンフレットより

福岡城　天守閣　武具櫓
本丸などの復元構想図

新規会員名簿（平成21年10月5日現在）

正会員（個人）

阿部　浩　　高田義幸

一般会員（個人）

久芳英正　　真松玉幹夫
波呂喜代子　　水岡上弘子
芳野登美子

福岡市民大学 中間報告

会員の皆様、お元気にお過ごしのことと存じます。

昨年に続き実施中の福岡歴史観光市民大学は七月六日に開校しました。多数の市民に応募いただき、講堂は毎回熱心な講義が行われております。全三十回多分野に亘り故郷福岡の素晴らしい歴史と伝統が各界の先生方により精密描写され、理解し易い説明と相まって受講される皆様は大学院のゼミ以上の態度で参加されておられます。今年度の特長は福岡市教育委員会の皆様の全面的協力のもと、七回の講義を担当され身近な問題点を中心に市民生活にかかわり深い題名を選んでくださいまして、夕刻十八時から内容の濃い話を提供されています。一方現地に出かけて遺跡・史跡や話題の処を確認して歩く現地研修は、これから中央区天神周辺と唐人町、博多区寺社廻り、西区よかとこの案内と、内容も充実させて実施します。博多伝統工芸の博多織は人間国宝の〝小川先生〟をお迎えして、博多人形は組合理事の〝川崎先生〟にそれぞれの伝統芸の真髄を披露していただきました。若い芸術家・狂言師の〝野村万禄先生〟も十月十九日に登場していただきました。福岡県と福岡市の観光政策は担当の部課長が今年度実施中の行事と将来方針について説明予定です。

以上実績と今後の計画について中間報告申し上げます。当日のみの単課申込もありますのでご参加下さい。

担当　津田慶一

平成二十一年度の新たな公によるモデル事業
「市民参加の古代官道事業」始まる

昨年度、新しい試みとして「新たな公によるコミュニティ創生支援モデル事業」（国土交通省選定事業）、「市民参加の古代官道調査・活用事業」が当NPOと太宰府のNPOとの共同で行われ、多くの市民に「古代官道」というものの存在と、そのスケールの大きさ、そのロマンを秘めた謎を印象つけましたが、本年度もバージョンアップして取り組むことになりました。

市民参加「**1300年前のハイウエイを探る―古代官道ロマン―**」と銘打った事業の第一弾、「**市民フォーラムin福岡**」が十月十六日（金）十八時より二時間半にわたって福岡市役所十五階講堂で行われました。石井幸孝理事長が「1300年前のハイウエイ　世界に繋がる」と題して、福岡市内身近にあるその痕跡道ともいえる高宮通りや筑紫通りの意外さや、古代官道の驚くべき実態を述べ、そのルーツともいえるローマ街道や中国秦の直道にも言及しました。また福岡市教育委員会の長家伸氏と吉武学氏から、福岡市内で発掘調査された古代官道の遺跡や鴻臚館についての解説がありました。約百五十名の参加があり熱心な質疑もありました。

「市民フォーラムin福岡」の様子

「古代官道」事業は、引き続き「**市民フォーラムin太宰府・筑紫野**」（十一月十一日（水）十三時三十分より・筑紫野市生涯学習センター）として、万葉集歌人と古代官道の旅をテーマにした、森弘子太宰府発見塾長、両市教育委員会専門家らによる講演会をおこないます。

昨年度人気のあった、専門家と一緒に歩く「**探索フィールドワーク**」も

第一回　太宰府・豊前路ルート（十一月七日）、
第二回　太宰府路・東西横断ルート（十一月十四日）、
第三回　壱岐・対馬路・東西横断ルート（十一月二十一日）、
第四回　水城西門・東門バイパスルート（十一月二十八日）

が開催されます。いずれも土曜日九時～十二時です。

さらに本年度は「**ワークショップ**」として、地域の皆さんとご一緒に古代官道を語り合う試みを行います。「永丘駅周辺」「城の山道」（いずれも太宰府南郊外）を対象としています。

このほか広く市民から古代官道にまつわる**発見・論説・提案・創作の大募集**と銘打って、取っておきの情報提供を募っており、市民の積極的なご提言等をお待ちしています。斬新なものは報告書やシンポジウムで発表させていただきます。二月には「**市民成果発表シンポジウム**」を開催いたします。

駅鈴・複製

市民フォーラム、フィールドワークに参加ご希望の方は詳細、案内チラシ参照、または事務局にお問い合わせ下さい。（電話　〇九二-七一六-八二三八）

姫路城黒田武士顕賞会との交流

津田　慶一

八月二十三日（日）の午後、姫路市民会館で行われたNHK松平定知氏の「世界一のナンバー2・黒田官兵衛・」は定員六百名に対し四千二百名の申込みがあり、選に漏れたファンが会館周辺に押し寄せると言う盛況ぶりでした。姫路市の黒田武士顕賞会の神澤輝和氏のお招きを受けて「福岡城市民の会」から三人、中津市から「アッ官兵衛の会員」等三十三名が同席聴講の栄に浴しました。松平流の話術と豊富な資料を基に黒田官兵衛の人間性をえぐり、智謀の人として戦乱の世を生き抜き、頭角を現していった課程が楽しく明るくユーモアに演出され会場は熱気に包まれました。

特に生誕の地である姫路の人達は終了後も余韻一杯で、紅潮した顔は次の目標「NHK大河ドラマの主人公に黒田官兵衛を」に一点集中し輝くばかりに見てとれました。

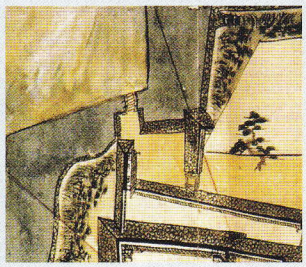
市内いたるところ、官兵衛の絵やチラシ、のぼり又は関連商品があふれ、観光客の多くが立ち寄り、各商店は盛況の極みである。外国人観光客が全体の何割かを占めており、世界各国の人種が見られ、国際色豊である。世界遺産として日本を代表する立派な城であると再認識いたしました。

前夜祭を兼ねた歓迎会は地元、酒造会社の酒倉で開かれ、中津黒田武士の会が新曲発表、新舞踊「日の本一の槍おどり」を披露し兜デザインの菓子やタオル等の新製品が参加者に紹介されました。

福岡城地元からの組は出し物も無く今後の楽しみとなったが、官兵衛が唯一愛した妻お光の方についての史実説明は多くの人に感銘を与えました。今後の共通目標「官兵衛を大河ドラマに」に向かって固い団結を誓う記念すべき出発点となりました。

福岡城市民の会も一致して実現に努力しましょう。

表紙
福岡城：追廻橋と門の周辺



【追廻門】

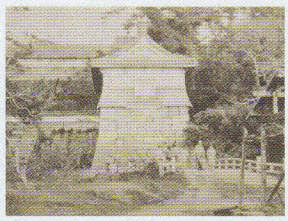
福岡城には広大な城域にもかかわらず、外部との出入口として「上の橋門」「下の橋門」「追廻門」の三ヵ所しかありませんでした。

敵が表の大手門虎口を攻めているとき、裏の門から出馬して背後から襲う兵法から「追廻門」と付けられたといわれています。

【新旧の追廻橋】

本当は右の写真が示すように金物櫓（かなものやぐら）の西側全面に追廻橋門（おいまわしばしもん）がありました。

現在左の写真のように架かっている木橋は、その追廻橋周辺の雰囲気をかもし出すための模型です。



編集後記

今年も残り二か月余りとなりました。市民の会も遅々とした歩みを少し早めようとしています。

従来の事業の充実とともに、舞鶴城セントラルパーク構想を検討する会合や基金財団づくりへの初歩的な取り組みなど、会員の皆様方のご期待に添うよう事務局一丸となり、ますます努力、邁進してまいります。

編集・発行：
鴻臚館・福岡城跡歴史・観光・市民の会

住所：
〒810-0042 福岡市中央区赤坂1-12-15
読売福岡ビル7階
TEL:092-716-8238
FAX:092-716-8254
HPアドレス：
http://fukuokajokorokan.npgo.jp/
E-mail:
fukuokajo@tos.bbiq.jp

デザイン・印刷：S&Mトラスト株式会社